

# 心の豊かさ、人々のつながりへの貢献

## 2030年 目標

感動を呼び起こす写真・映像の記録や、思い出をカタチにする写真製品で人生の豊かさや平和な暮らしに貢献

スマートフォンやSNSの普及により、写真は日常に欠かせないコミュニケーションツールとなり、人と双方向に想いを共有するツール、また自己表現のツールとしての重要性も増えています。富士フィルムグループは、写真のリーディングカンパニーとしてこれまで多くの「人」と「人」の心をつなぎ、人生を豊かにする写真の価値を発信し続けてきました。「撮る、残す、飾る、そして贈る」という写真の様々な楽しみ方を伝えていくために、これからも時代の変化に合わせた写真の可能性を追求し、写真・映像文化の発展と心豊かな社会の実現のために貢献していきます。

## 2018年度 の活動

### 【目標】思い出をカタチにした写真を楽しむ機会の提供

- スマホに対応した様々なサービスを開始(アプリ「かぞくのきろく」、プリントサービス「FUJIFILM Prints & Gifts」、フォトブック「PhotoZINE(フォトジン) SLIMタイプ」)
- プロ仕上げの高画質な銀写真プリントをネットで簡単に注文できる「プレミアムプリントサービス」を開始
- instax「チェキ」発売20周年を記念してキャンペーン、製品ラインナップを拡充
- 応募者全員の作品を展示する参加型写真展を国内及び米国・欧州などで開催し、2018年度にはワールドワイドで合計約10万点の作品を展示
- “写真を飾ってほめる”という、子育て新習慣の啓発活動「ほめ写プロジェクト」のメインパートナーとして活動開始



海外では「FUJIFILM Global Photo Exhibition」として開催。写真は南アフリカの会場風景。

### 【その他の主な活動】

- エントリーモデルから中判サイズまで、幅広い撮影ニーズに応える高画質なミラーレスカメラの提供
- 「FUJIFILM SQUAREの活動」がメセナアワード2018優秀賞「瞬間の芸術賞」を受賞
- 世界初「スーパーCCDハニカム」を搭載したデジタルカメラ「FinePix4700Z」が国立科学博物館「重要科学技術史資料」に登録

## 今後の 活動&目標

- 「撮る、残す、飾る、そして贈る」写真の楽しみを世界中に伝える製品・サービス・機会の提供
- アナログからデジタルまであらゆる写真をAIで管理・整理する写真クラウドサービスを開始
- 参加型写真展の海外でのさらなる展開

富士フィルムグループは、創業以来「写真文化」の発展のため、写真の素晴らしさ、楽しさ、感動、残す大切さを伝えてきました。2018年度は、写真撮影の中心になったスマホに対応した様々なアプリ、サービスを開始。スマホ時代ならではの新しい写真の楽しみ方を提案、提供しています。また、高性能なミラーレスデジタルカメラなどで撮影した写真を、高画質な銀写真プリントで出力し、「作品」に仕上げてお届けする「プレミアムプリントサービス」を開始しました。銀写真プリントならではの深みのある色調と豊かな階調表現から生まれる立体感のある仕上がりが、パン

コンやスマホ上での閲覧とは違った写真の楽しみを提供します。そのほか、写真を飾って子供の自信を引き出す「ほめ写プロジェクト」(P32参照)のメインパートナーになるなど、写真のもつ力を生かした当社ならではの様々な取り組みを進めています。



長年にわたる写真作品に関わる活動が評価された「メセナアワード2018 優秀賞「瞬間の芸術賞」」の贈呈式